

#42

ウェブデザイナー 人と機械が相手のコミュニケーション



MC・リポーター
井本彩花



今回のゲストはウェブデザイナーの^{たかぎようこ}高木陽子さんです。高木さんは20代的时候、インターンとしてフリーペーパーの編集に携わったことをきっかけに、デザインの仕事に興味を持つようになりました。その後、当時新しい分野で人手不足だったウェブサイトの制作会社でアルバイトを始め、今は生活協同組合のウェブサイトを、子会社の社員として作っています。「ウェブデザインは人とのコミュニケーションと機械とのコミュニケーション」という高木さんに、仕事の具体的な内容ややりがいについて伺います。

ウェブデザイナーの仕事とは

ウェブサイトをデザインする仕事です。クライアントやスタッフと話し合いながら、サイトの目的やねらいに沿ってさまざまな工夫を凝らし、全体のレイアウト、写真やアニメーションの見せ方、文字の書体や色、大きさなどを考えます。また、そのサイトがパソコンなどの画面に表示されるように指示を打ち込む「コーディング」という作業も行います。

ウェブデザイナーの仕事をするには

ウェブデザイナーには大きく分けて3つのタイプの働き方があります。1つ目はウェブサイトの制作会社で働く方法で、2つ目は特定の企業や組織のウェブサイトを職員として制作するインハウスという働き方です。どちらの場合も、正社員、契約社員、アルバイトなど様々な求人があります。3つ目はフリーランスです。仕事に必要な知識は、専門学校で学ぶこともできますし、高木さんのように独学で身につける人もいます。

このページ掲載の文章・画像の無断転載を固く禁じます。



ウェブデザイナー・高木陽子さんに聞きました！

井本：高木さんはどんなサイトのデザインをしていらっしゃるんですか？

高木：私は生活協同組合のウェブサイトを作っています。

井本：生活協同組合って……生協のことですね。

高木：はい。

井本：その、食料品とか自宅に宅配してくれるんですよね。

高木：はい。

井本：つまり、高木さんは生協の職員ということですか？

高木：厳密に言うと、生協が立ち上げた子会社の職員です。ウェブデザイナーって働き方が3つパターンがありまして、多分一番よく聞くのは、制作会社に所属しているウェブデザイナー。で、2つめがインハウスで働くウェブデザイナー。3つめがフリーランスで働くウェブデザイナーなんですけども、私はその2番目のインハウスというものに属するかたちで働いています。

井本：そのインハウスって具体的にどのようなものなんですか？

高木：インハウスっていうのは、その会社ですとか、その組織の専門のデザイナーっていうことになるので、私の場合は所属しているところの生協のウェブデザインしか作らないです。

人と機械を相手にコミュニケーションする！

井本：高木さんたちが作られているウェブサイトを見させていただいたんですけど、いろいろな食材がカラフルに紹介されていたり、レシピが載っていたり、生産者を紹介する記事があったりして、すごく商品に対する興味がわいてきました。

高木：ありがとうございます。

井本：高木さんはこれを毎日作っていらっしゃるんですか？

高木：毎週、組合員が注文するページがあるんですけども、そのページは一週間で回転していくので、どんどん作っていきます。

井本：毎週?!

高木：そうなんです。

井本：忙しそうですね。

高木：はい。

井本：ページが出来上がるまでに具体的にはどんな作業があるんですか？

高木：大きく分けてデザイナーの仕事は3つに分かれていて、「オリエンテーション」をすることで、そこから「デザイン」をつけていって、それを「コーディング」という、3段階に分かれています。

井本：「オリエンテーション」「デザイン」「コーディング」？ 「オリエンテーション」とはどういうものなんですか？

高木：例えば「こういった特集を組みたいか」っていうのをディレクターとすり合わせをしていきます。「ひな祭りの特集を組みたい」ってなったら、例えばそうですね、結局見るのは大人なので、「すこし大人っぽくしたいです」とか、あとは例えば「そんなに女の子に寄りたくない、もうちょっとニュートラルにしたい」みたいな話を、ディレクターと、表現に関してすり合わせをしていきます。

井本：そうなんですね。

高木：その話のあとに、デザイナーの中で「こういった色」ですとか、「こういった書体」ですとか、「配置はこうしよう」みたいなことをデザインしていきます。

井本：それはすごくセンスが問われますね！

高木：そうですね。

井本：そして、「コーディング」っていう言葉は知らなかったです……。

高木：コーディングっていうのは、一度デザインをつけたものを一回分解して、機械が分かるようにもう一度組み立て直すっていう作業になります。例えば「文字のサイズはこれぐらい」とか、「画像はこの位置に置く」とかいったことを、組み立てていくっていうことをするんですけども、それがコーディングになります。

井本：なるほど。そのコーディングは、パソコンで打ち込んで（行うんですか）？

高木：はい。

井本：大変ですね！

高木：そうなんです。実は大変です。

井本：人と話し合ったり、パソコンの技術も必要だったり、いろんなスキルが必要ですね。

高木：ウェブデザインって「人とのコミュニケーション」と「機械とのコミュニケーション」の2つがあると思っているんです。例えば、皆さんがブラウザから見ているウェブデザイン、ウェブサイトは、「人と人とのコミュニケーション」になると思うんですね。例えば文字が大きいほうが声を大きく感じるじゃないですか。

井本：はい、たしかに。

高木：あとは色が薄いのと濃いのとでいうと、濃い方が力強く感じるじゃないですか。

井本：たしかに。

高木：そういったところは、やっぱり人が感じる感性なので、「人の感性ってどうなのかな」とか、「人はどうやって理解するかな」っていうのを考えながらデザインをつけていきます。

井本：そうなんですね。

高木：「機械とのコミュニケーション」っていうのもあって、機械って人間ほどファジーにできてないので、例えば「だいたいこれぐらい」みたいなことは理解できないんですね。なので、「文字のサイズはこのサイズ」とか厳密に決めていかないと機械は理解できないので、そこを置き換えるっていうことが必要になります。

井本：高木さんが仕事をするうえで大事なことってなんですか？

高木：まずデザインをしていると、とても自分の視野が狭くなってしまうんですね。それはそれでいいんですけども、そうすると見えなくなってくるものがあるので、出来上がったらずばは人に見てもらおう。そして人からアドバイスをもらうんですけど、そのアドバイス

は素直に聞くようにするっていうこと。あとはディレクターからもらった入稿データで、もっと改善できるなって思ったら自分から提案をするっていうところですかね。

未経験で飛び込んだウェブデザインの世界

井本：高木さんは、最初からウェブデザイナーを目指してたんですか？

高木：最初は全然違う仕事をしていました。最初は金融系の仕事をしていて、デザインとは全く違う……。

井本：……そうですね。共通点が見当たらないですね（笑）。

高木：そうなんです（笑）。それで、自分には合っていないと思って退職をして、そのあと学生のころからやってみたかった「海外で暮らしてみたい」というのを実現しようと思って、ニューヨークに1年語学留学に行ってきました。

井本：すごい！ それはおいくつぐらいのときなんですか？

高木：27歳のときです。

井本：留学されて、そこでどうされたんですか？

高木：アルバイトを探してたときに、「観光のフリーペーパーの、編集の仕事のインターンがあるよ」と教えてもらったんです。なので、「あ、インターンっておもしろそうだな」と思って、もちろんインターンはお給料もらえないんですけども、「日本では経験できないことが経験できるかもしれない」と思って、その編集のインターンっていうのを帰国の直前までやってみました。まるまる1年ですね。

井本：それで帰国されてからはどうされたんですか？

高木：ニューヨークでインターンをしていたときに、デザイナーの職業っていうのを間近で見る機会があったので、帰国してからは「デザインの仕事に就いてみたいな」と思っていました。

井本：で、それからはどうされたんですか？

高木：実は、その当時は紙のデザインで仕事を探してたんですけども、なかなか未経験だと見つからなくて。それで当時はウェブサイトがまだ立ち上がったばかりといいますが、日常に当たり前にはなかったのが、猫の手も借りたいような社会的な状況だったんですよ。なので未経験でもOKっていう会社を見つけて、そこで2年ぐらいアルバイトをしてました。

井本：じゃあ未経験の状態でお仕事をされたんですか？!

高木：そうなんです。もう全部が未経験からのスタートですよ（笑）。

井本：そのときどんな心境でしたか？

高木：3か月ぐらいは「あんまり自分が役に立ってないな」「ちょっとつらいな」と思ってたんですけども、でも「ここを乗り越えないと、ウェブデザイナーになれないから頑張ろう」と思っていました。

井本：その時点で、「ウェブデザイナーになりたい」と思ってたんですか？

高木：実は、まだそのころは「紙のデザインをやりたいな」と思って……。

井本：あ、なるほど。

高木：入口としてウェブデザインを選んだんですけども、実は仕事をしていくうちに「ウェブ

デザイナーがおもしろいな』っというふうにな変わってきました。で、結局、何がおもしろいかって言うと、例えば「どういった検索ワードでそのページにたどり着いたか」とか、「そのページからどれだけの人が買い物をしたか」とか、「どのボタンをどれくらい押したか」とかが、全部数値で見えるんですよ、ウェブサイトって。そうすると、自分が作ったものが、人とコミュニケーションがちゃんと取れているのかとか、そういったことを検証しながら改善することができるっていうのがおもしろいなと思ったんです。

井本：すごいな。なんか、ほんとに尊敬します！

高木：いえいえいえ。結構寄り道をしたかなと思ってます、自分では。（笑）

井本：それで、今の職場の生協にはどんな経緯で入られたんでしょうか？

高木：ニューヨークから戻った後に入った制作会社で2年ぐらい働いてたんですけども、いろんな企業のサイトを作るのではなくて、一つのブランドのサイトにじっくりかかわってみたいっていうふうに思って、転職をしたんですね。で、そこではスタートとしては派遣社員からスタートしたんですけども、今のところで、就職をするっていうかたちになりました。当時自分ではやりたいことっていうのが明確にあって、もともと食の仕事に携わりたいてって思っていたんですけども、生協って例えば地産地消って言って、「近くで採れたものを、エネルギーをそんなに使わずに届けてもらって食べよう」ですとか、あとは「農薬がたくさん使われているものじゃなくて、環境にもやさしいような農作物を食べよう」ですとか、そういった考えがあるので、「あ、すごく自分に向いていそうだな」って思ったんです。

飽きることがない仕事

井本：ウェブデザイナーの仕事の魅力ってなんですか？

高木：そうですね、まず仕事に飽きることがないっていうところだと思うんです。技術がどんどん進歩していくので、それによって、自分のできる範囲がどんどん広がっていきたり、あとは今までできてたことが逆に古くなってもう使えなくなっていきたりするんですね。それで、そういったことが自分の中では、新しい刺激となって仕事のおもしろさっていうのを感じています。あとはウェブの世界って年功序列とかあんまり関係ない世界なので、本当に学歴とか年齢を気にせずに、仕事に携われるっていうのはいいことだと思ってます。

井本：高木さんは独学されましたが、今は専門学校でも勉強することもできます。どちらをおすすめしますか？

高木：そうですね。独学には独学の良さがあるなと思っていて、例えば学校ではカリキュラムが組まれると思うんですけども、そのカリキュラム通りの勉強だけしていると、全員同じ知識だけをもった人が出来上



このページ掲載の文章・画像の無断転載を固く禁じます。

がってしまうと思うんですね。だけど、独学をすることによって、他の人が持ってない強みっていうのが得られるようになると思うんです。ただ、学校に行くことで同じ志をもった友達がそばにいたりですとか、相談できる先生がそばにいたりですとか、学校に行く良さっていうのは、それはそれであると思っているので、できれば両方やるといいのかな。と思っています。

井本：あー、なるほど、どちらもバランスよく。

高木：バランスよく、はい。

“広告ではないもの” を作りたい

井本：将来ウェブデザインの世界ってどうなっていくと思いますか？

高木：そうですね、今、AIってどんどん出てきてると思うので、そういったものに置き換わる仕事も一部出てくるかなと思うんです。あとは例えばパッケージ化されたものっていうのがあって、色とか変えるだけで自分のウェブサイトに行き来できるみたいなものもどんどん出て来ていて、ウェブデザインっていう仕事が、ちょっとずつ減っていくように思います。とはいえ、やっぱり人と人とのコミュニケーションっていうところで、どういうふうに関わり合いに伝えるかっていうその世界観の表現の仕方みたいなところは、やっぱり人がまだまだ考えるのかなって思うので……ウェブデザイナーとしての仕事は、今すぐは無くならないかなっていうふうに思っています。

井本：そうなんですね。では、最後に高木さんの夢を教えてください。

高木：私がデザイナーを目指した大きな理由でもあるんですけど、「広告じゃないものを作りたい」っていうのがあります。

井本：広告じゃないものを作る。どういうことですか？

高木：そうですね。例えば広告って、なにかこう、押しつけているものがあるなと思っていて……その人はそんな気がないのに、ちょっと「買わせてやろう」みたいな。でも、本当は何か物を買うとか、何かに参加するとかって、読み手の意思で本当は始まると思うんですね。なので例えば、相手に納得してもらって物を買ってもらおうとか、そういったデザインに携われるようになりたいなって思っています。今でもできてないわけではないんですけど、もっともっと広告ではないものが作れたらいいなと思っています。

井本：そういうウェブサイトができるといいですね。

高木：そうですね。今、世の中がそういった世の中にシフトしていったらいいなっていうふうにちょっと実感を感じ始めていて、どんどんこれから相手と対等に話ができるようなデザインっていうのが増えていくんじゃないかなと思っています。

井本：そういうところでもコミュニケーションっていうのが大事になって来るんですね。

高木：そうですね。

